

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274202445		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	百葉わらしな(グループホーム) 2階		
所在地	静岡県静岡市葵区羽鳥6丁目25-11		
自己評価作成日	令和4年2月26日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202445-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202445-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・各居室に掃出し窓があり、ベランダに自由に入出りできるので、洗濯物を干し、園芸等をしています。  
 ・各居室に個人用のトイレがあり、共用のトイレに抵抗のある方にもストレスなく排泄いただける工夫とともに、事故排泄チェックを自立支援のひとつとして力を入れています。  
 ・セレクトドリンク・手作りおやつの日等、食べる喜び・作る楽しみを実践しています。  
 ・往診日には付き添われるご家族もおられ、往診医だけではなく、ご家族とともに体調管理に取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

パンフレットには「ご家族には我が家の離れだと思って行き来してもらえたらと思います」と、ほのぼのとする言葉が掲載され、それを体現できているのだと思う結果が家族アンケートにも挙がっていて安心です。面会は昨年10月から段階的緩和を試みていたものの、オミクロン株の流行により改めて3月15日まで面会制限となつてはいますが、こまめに電話連絡を実施して家族ケアにも余念がありません。1階のデイサービスから入所した人は階下での催し物を楽しみにしていることから、衛生管理に配慮して見学したり、「(配食の)朝食メニューが寂しいな」となれば一品追加するなど、柔軟な対応で利用者ファーストを実践しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念に基づいた「職員行動指針」「こよまケア行動指針」を入職時、目標面談時に確認する事、また個人面談を通じて、共有と実践に繋げています。	理念に基づいた「こよまケア行動指針」は行動規範として、職員が言葉にしたり、印刷物となって職員の身近にあります。さらに年間目標に位置づけ、個人面談を通じて管理者から投げかけ、介護の振り返りと実践につなげています。	「朝の時間がとりにくい」「コロナ禍で大きな声はばかられる」といったことが原因で唱和ができていないため、是正策の検討を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・新型コロナウイルス対応で、地域との行事がことごとく中止されている状況が続いています。今年は、夏に地域清掃の誘いの声掛けもいただきましたが、感染防止対策の為、不参加となりました。	地域の第一次避難場所として訓練には広い駐車場を活用してもらえ、子ども神輿の休憩所やボーイスカウトの掃除ボランティアのほか、ハロウィンでは子どもたちの笑い声がさざめく事業所でしたが、現在は階下のデイサービスでの企画に親しむのみです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議の記録をお伝えする事で、町内への理解をいただいております。回覧板の受け渡し等は継続しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・感染防止対策として運営推進会議が非開催となり、書面での伝達のみとなっております。ご家族とは連絡を継続して行っており、情報交換できてはいるものの、地域の方のご意見の汲み取りができていないのが現状です。	地域包括支援センター、自治会長などの運営推進会議のメンバーには2ヶ月毎の活動内容を書面にまとめて届けていますが、双方向のやりとりができていないことが課題です(家族とは電話などで都度情報交換が叶っています)。	書面開催は次のような手順として、メンバーの意見を収受することを期待します。 ①2ヶ月の運営内容を事業所内でまとめる→②メンバーに届け、アンケートなどを封入して意見を集める→③議事録を作成する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市役所(介護保険課・高齢者福祉課)との連携や地域包括支援センターへは、定期的に相談・報告をしています。	所轄部署である介護保険課には制度改正や更新の不明点がでた場合には電話で諸所教えてもらえています。また生活保護受給の利用者が2名いるため、高齢者福祉課には本人が受診するときなど、必要に応じて指示や助言を仰いでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・事故対策委員会を中心に勉強会を開催し、身体拘束しない事への重要性は定期的に確認・意識しています。 ・身体拘束廃止委員会設置で、3ヶ月に1度以上、現状把握等実施しています。	身体拘束廃止委員会を四半期ごとに開催、現場で起こりがちな小さなことにも着目して事例検討をおこない、予防に努めています。また新人は速やかに本件に係る研修を受講するとともに、定期研修のほか、事故対策委員会における勉強会も励行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ケアカンファレンス・面談では常に、職員が些細と感じる点でも、お客様視点では虐待に相当しないか、意見交換を行なっています。 ・インシデント・アクシデントの振り返りも行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・「きずなの会」を利用されている方の受け入れがあり、制度の必要性は職員間で理解・共有できています。 ・当該利用者様の退去があり、今後は別途話し合いの場を設けていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・介護報酬改定時、契約時には重要事項説明書と合わせて、同意を得られるよう丁寧に説明をしています。 ・また特別な希望がある場合でも、相互調整を行ない、同意の上で契約いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・お客様一人ずつに担当を決め、気軽に相談できる窓口を複数作るとともに、面会時・運営推進会議・年1回の法人アンケートでの意見・要望などは速やかに検討し、できる限りその実現に向けて努めています。	利用者本人の身の回りのこと等に目配りや確認おこなう「居室担当」がおり、また日々の記録やカンファレンスを通じて他の職員も情報共有ができていて、家族の問い合わせにもスムーズに対応しています。法人アンケートでは面会への提言があり、即改善しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・感染対策で少なくはなっているものの、定例の会議にて、リーダー・フロアリーダーを中心に職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	グループホーム会議を月1回と定めています。が、コロナ禍の影響で少人数開催や書面開催に都度変更しています。職員からは物品について困っている事が随時挙がっていて、車いすの補充や車いす用の体重計購入に突っ込んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員に年度の上期下期の年2回、目標管理シートと実務者評価表を記入してもらい、面談を設けています。進捗状況を確認し、達成に向けて一緒に考える環境にあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・勤務表の調整を行ないながら、研修に参加しやすい環境を整えています。研修前後には面談を実施したり、参加した職員が、研修内容を現場にフィードバックできる体制をとっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・zoomでの地域勉強会へ参加する事で、同業者との交流や情報交換を行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人様の思いを大切に、必要に応じて随時情報共有をしています。初期の担当をCMが行ない、介護業務もご本人様との関係づくりに役立てています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・CMやNS、管理者等多職種が初期インタビューに関わり、ご家族の安心を確保できるよう努めています。 ・ご家族都合に合わせた話しやすい環境下での関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前に、併設のDSを利用していただく事もあり、施設全体のお客様とも馴染みの関係を構築できる環境にあります。多職種連携に力を入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・GH内で行なう家事(掃除・ゴミ捨て・洗濯たたみ等)は、お客様と職員が一緒に行なう形式をとっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・要介護度の高い方の受診対応時には、職員も同行し、ご家族の負担軽減と連携に努めています。 ・往診時にも適宜付き添いいただく事で、体調等の共有も図れています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・感染状況に応じて制限解除しながら、ルールを定めて、玄関や屋外で行なっていますが、現状直接の接触面会は制限期間が多く、web面会を推奨し、行なっています。	コロナが終息しかけた11月に面会を緩和、「少人数なら面会できます」と家族へアナウンスしたところ、孫まで帯同しておもいのほか増えての来訪で驚いたものの、職員が撮影した写真をオリジナル年間カレンダーに使ってくださり、嬉しい誤算の着地となった事もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションは、午前・午後と担当を変えて開催したり、誕生日企画を充実させています。デイサービス休業日や、イベントに際しては広いスペースで実施することで気分転換を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院によって退居された利用者のご家族や入院先とは、連絡をとり、経過の支援に努めています。ご家族からの経過連絡もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・居室担当を中心に、本人の思いも洗い出し、随時緊急カンファも行なっています。 ・環境整備では、馴染みやすい部屋づくりと、重度化した場合でもご本人が安心して暮らせる環境整備を工夫しています。	アセスメントからの介護計画、日々の観察とモニタリング、カンファレンスと意向を反映させる仕組みが適切に運用され、入浴では「午後に入りたい」や同性介助が叶い、買い物も衛生を整えたいと近くのスーパーマーケットで数分ならと、柔軟に対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に暮らしていたお家に訪問したり、ご家族やご本人からの情報収集をする事を重視し、経過の把握に努めています。 ・馴染みの品物や趣味、習慣を重要視した生活が送れるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の様子を各種チェック表と記録とで評価し、小さな変化も見落とさないように職員同士が連携しています。 ・できる所は、ご自身で行なっていただく自立支援で、生活の楽しみを増やす工夫をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的カンファレンスに加えて、身体状況に大きな変化がみられるお客様には臨時のカンファレンスを行ない、介護計画を作成しています。また、事前に居室担当者とCMはご家族と情報共有もしています。	運営規程には「介護計画の作成」の項目を設け、適正な作成につなげています。また生活リハビリを本人のADLの状態や気持ちに配慮して支援していることが介護計画から確認でき、2表の担当者欄に介護職以外の方があがっていることも安心です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日勤リーダー制を導入しており、日々のお客様の情報の申し送りや共有がスムーズにできています。また、看護師やOTの関わりもあり、介護計画に専門分野の視点も取り入れられています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族やご本人の希望に沿って訪問歯科治療、訪問理美容の対応もしています。またリハビリスタッフと連携をとり、情報共有、指導を受けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・不定期ですが、町内会有志による衣類、シーツ、古新聞等の寄付があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療機関の間では、医師連絡表を活用する事で、受診対応時に直近のご様子をお伝えできるよう支援しています。臨時往診にも対応いただいています。	13名と5名と2つの協力医に分かれて月2回の訪問診療を受けています。家族も立ち会っていましたが、現在は頻度は減り、また中には入らず相談室で医師から説明を受ける方法に切り替えています。診療には看護師の他、往診担当ができる職員を配置しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設内のNSから日々のアドバイスを受け、適正な処置・受診の勧め・ケアでの注意点を指導してもらっています。状況に応じて、かかりつけ医のNSと連携をとって対応を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、CM・管理者・NSが入院先に訪問をしたり等で、情報収集に努めています。退院時には療養計画のもと、主治医との連携を重視し、速やかなケアに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・主治医からの診断のもと、終末期や重度化されている利用者のご家族が施設でも、ご家族会議を行なえるよう支援を行なっています。今年度は実施ありませんが当施設での看取りを希望されたご家族には医師の了解のもと、看取り介護を行なっています。	契約時に書面で家族に説明のうえ、重度化の兆しが見られた場合には医師を中心に家族と事業所の3者で「対応できるのか」を協議しています。入院から脱水症状で戻ってきた人の話し合いの場を持ちましたが幸いにも好転、本年度の実績はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当については、普通救命講習への参加を実施する等、対応の習熟に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防火管理職員のもと、災害時の訓練を行なっています。防災備蓄の管理は、法人管理部と連携し、継続して行なっています。	例年9月と3月に訓練を実施しています。コロナや職員配置等悩ましいこともあって3月の計画が思うように進まないため、机上訓練も視野に入れて、現在検討中です。また、ゆくゆくは近くの河川氾濫を想定した避難訓練も実施したいとしています。	新人には初めての当社当日オリエンテーションの一つとして避難経路の確認をおこなうことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の尊厳を尊重し、なれなれしくない会話の配慮を行なっています。場面により、よそよそしくなってしまうないように、言葉かけには注意しています。	「利用者の尊厳を保ち、穏やかに暮らせていけるように」と、介護現場の虐待、不適切ケアの防止に向けたチェックリストを本年導入しています。また普段から生活リハビリが盛んで、「参加することに意義がある」として一人ひとりのADLに応じた取組に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・毎日のおやつ時には、セレクトドリンクを提供しています。 ・利用者によっては、行きつけの馴染みの美容師の方にお越しいただき、対応している方もいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴の時間を固定するのではなく、職員が一人になる夜勤帯を除く時間内で入浴ができるようにしています。 ・2階と3階の行き来は原則自由で、活動の幅の制約はできるだけ少なくしたいと考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者の好みの化粧品や服などを用意したり、ご家族にご用意の依頼をしています。 ・定期的に訪問理美容に来てもらい、ご本人・ご家族の希望に合わせ、散髪の実施もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者ができる範囲で、安全に配慮した調理介助の実施や、片付けもできる範囲で行なうようにしています。食事前後の消毒やテーブル拭き、食器洗いや食器拭きも行なっています。	お正月にはおせち、クリスマスにはチキンと行事食も含み、法人内施設の厨房からクックチルで食事が届いています。コロナ禍で黙食となっている沈みがちな雰囲気を明るくしようとYouTubeで季節の音楽を流す工夫もおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・嚥下の状態や身体状況を考慮した食事形態や食事量で提供しています。 ・老健所属の管理栄養士の献立をクックチルにて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・視界の指導のもと、普通の歯ブラシに加えて、口腔洗浄剤や義歯洗浄剤、うがい薬などを使用して、その方にあつた声掛けや誘導にて口腔ケアを実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・各居室にトイレが設置されており、トイレまでの距離が短い事で、失禁を減らせていると感じています。ご本人の希望に合わせて、トイレの照明の自動点灯や各種パッド類の使い分けや調整をしています。	個室に配置されたトイレから立ち上がりの歩行で転倒してしまった例もあり、トイレにたどり着くまでの動線が狭いことに注視しつつ、ベッド位置をかえるなどOT(デイサービス勤務、随時相談にのってもらえている)と相談しながら、改善にあたっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日のTV体操や転倒予防体操を行なう事で、運動の機会を確保しています ・寒天等、食物繊維のあるものを個別に提供している方もいます。 ・主治医と、排泄のタイミングについては随時連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を確認し、希望時間に合わせた入浴も心掛けています。	「湯に浸かる喜び」を2人介助で継続させることや、「あの職員がいい」との要望に応えるためにも、両ユニットで職員を交代するなど協力体制を敷いています。また「温まってほしい」「雰囲気味わってほしい」として浴剤も本年から導入、柚子の香りが人気です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・施設の備品として、ベッドは用意していますが、ご本人の生活習慣に合わせ、畳に布団敷きでお休みできる環境にしている方もいます。身体的に重度化した際には、介護ベッドの使用もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診後に処方された薬情を個別にファイルし、職員が常時閲覧できるようにする事で、薬の内容や副作用について理解を深めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・各利用者の楽しみごとができるように必要物品の購入をしたり、それぞれに役割(ゴミ出しや園芸等)を持っていただくようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・新型コロナウイルス感染対策の為、戸外へのお出かけは制限がある状態ですが、すぐそばの公園まで足を伸ばし散歩をしたり、日光浴をする機会を持つようにしています。	皆ではできませんが、通院や理美容で家族と出かける日があり、少し息抜きできています。また階下デイサービスではフラダンスや吹奏楽の慰問があり、感染対策に気配りつつでも楽しめています。またペランダや徒歩数分の公園での外気浴も継続させています。	降りないドライブ、DVDやお取り寄せグルメ、ご当地料理などで旅情気分を味わう等、外出がなくても楽しめる工夫があることを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は施設での金銭管理は行なっておらず、必要な物品やご本人の希望のものの購入に際しては、立替などで対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙のやりとりは、あまり頻繁ではありませんが、年賀状や暑中見舞いの返信は行なっています。 ・ご本人の希望に合わせ、電話通話対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室に掃出しの窓とベランダがあるので、換気と合わせ毎日開放する時間を作っています。 ・ベランダは園芸や、洗濯干し場としての活用をし、施設内に閉塞感がないようにしています。	ベランダが各居室続きにあり、現在は鉢植えに咲く花を愛でていますが、春になったら種植えから取組「野菜を育てたい」と話が弾んでいます。共用空間は1時間おきに換気をおこない、消毒はコンタクトポイントを中心に随時実施して衛生を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事以外の時間は、気の合う方同士がお話されたり、ご夫婦での時間を大切に作る時間を作っています。 ・個室対応である事で、お部屋で一人で過ごされるプライベートな時間も作れています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みのものを使用しながらも、居室に合わせたもの買い替える事も行なっています。畳の部屋を好む方には、フローリングに畳を敷き、対応しています。 ・食器も個々に違うお茶碗と箸を使用しています。	テレビは半数程の居室にあります。携帯は数名が持ち込んでいますが、段々使えなくなって、現在は全員が事業所の固定電話で家族と話しています。家族がプリザードフラワーが趣味で、毎月届けてくださる人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・施設リハビリスタッフの意見を取り入れながら、ベッドやタンスの位置を調整したり、畳を敷いたりする事で、安全でスムーズに行動できるよう動線の確保をしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202445		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	百葉わらしな(グループホーム) 3階		
所在地	静岡県静岡市葵区羽鳥6丁目25-11		
自己評価作成日	令和4年2月26日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202445-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274202445-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各居室に掃出し窓があり、ベランダに自由に入出りできるので、洗濯物を干し、園芸等をしています。</li> <li>・各居室に個人用のトイレがあり、共用のトイレに抵抗のある方にもストレスなく排泄いただける工夫とともに、事故排泄チェックを自立支援のひとつとして力を入れています。</li> <li>・セレクトドリンク・手作りおやつの日等、食べる喜び・作る楽しみを実践しています。</li> <li>・往診日には付き添われるご家族もおられ、往診医だけではなく、ご家族とともに体調管理に取り組んでいます。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>パンフレットには「ご家族には我が家の離れだと思って行き来してもらえたらと思います」と、ほのぼのとする言葉が掲載され、それを体現できているのだと思う結果が家族アンケートにも挙がっていて安心です。面会は昨年10月から段階的緩和を試みていたものの、オミクロン株の流行により改めて3月15日まで面会制限となつてはいますが、こまめに電話連絡を実施して家族ケアにも余念がありません。1階のデイサービスから入所した人は階下での催し物を楽しみにしていることから、衛生管理に配慮して見学したり、「(配食の)朝食メニューが寂しいな」となれば一品追加するなど、柔軟な対応で利用者ファーストを実践しています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念に基づいた「職員行動指針」「こやまケア行動指針」を入職時、目標面談時に確認する事、また個人面談を通じて、共有と実践に繋がっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・新型コロナウイルス対応で、地域との行事がことごとく中止されている状況が続いています。今年は、夏に地域清掃の誘いの声掛けもいただきましたが、感染防止対策の為、不参加となりました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所の、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議の記録をお伝えする事で、町内への理解をいただいております。回覧板の受け渡し等は継続しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・感染防止対策として運営推進会議が非開催となり、書面での伝達のみとなっております。ご家族とは連絡を継続して行っており、情報交換できてはいるものの、地域の方のご意見の汲み取りができていないのが現状です。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市役所(介護保険課・高齢者福祉課)との連携や地域包括支援センターへは、定期的に相談・報告をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・事故対策委員会を中心に勉強会を開催し、身体拘束しない事への重要性は定期的に確認・意識しています。 ・身体拘束廃止委員会設置で、3ヶ月に1度以上、現状把握等実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ケアカンファレンス・面談では常に、職員が些細と感じる点でも、お客様視点では虐待に相当しないか、意見交換を行なっています。 ・インシデント・アクシデントの振り返りも行なっています。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・「きずなの会」を利用されている方の受け入れがあり、制度の必要性は職員間で理解・共有できています。 ・当該利用者様の退去があり、今後は別途話し合いの場を設けていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・介護報酬改定時、契約時には重要事項説明書と合わせて、同意を得られるよう丁寧に説明をしています。 ・また特別な希望がある場合でも、相互調整を行ない、同意の上で契約いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・お客様一人ずつに担当を決め、気軽に相談できる窓口を複数作るとともに、面会時・運営推進会議・年1回の法人アンケートでの意見・要望などは速やかに検討し、できる限りその実現に向けて努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・感染対策で少なくはなっているものの、定例の会議にて、リーダー・フロアリーダーを中心に職員の意見や提案を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員に年度の上期下期の年2回、目標管理シートと実務者評価表を記入してもらい、面談を設けています。進捗状況を確認し、達成に向けて一緒に考える環境にあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・勤務表の調整を行ないながら、研修に参加しやすい環境を整えています。研修前後には面談を実施したり、参加した職員が、研修内容を現場にフィードバックできる体制をとっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・zoomでの地域勉強会へ参加する事で、同業者との交流や情報交換を行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人様の思いを大切に、必要に応じて随時情報共有をしています。初期の担当をCMが行ない、介護業務もご本人様との関係づくりに役立っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・CMやNS、管理者等多職種が初期インタビューに関わり、ご家族の安心を確保できるよう努めています。 ・ご家族都合に合わせた話しやすい環境下での関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前に、併設のDSを利用していただく事もあり、施設全体のお客様とも馴染みの関係を構築できる環境にあります。多職種連携に力を入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・GH内で行なう家事(掃除・ゴミ捨て・洗濯たたみ等)は、お客様と職員が一緒に行なう形式をとっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・要介護度の高い方の受診対応時には、職員も同行し、ご家族の負担軽減と連携に努めています。 ・往診時にも適宜付き添いいただく事で、体調等の共有も図れています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・感染状況に応じて制限解除しながら、ルールを定めて、玄関や屋外で行なっていますが、現状直接の接触面会は制限期間が多く、web面会を推奨し、行なっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションは、午前・午後と担当を変えて開催したり、誕生日企画を充実させています。デイサービス休業日や、イベントに際しては広いスペースで実施することで気分転換を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院によって退居された利用者のご家族や入院先とは、連絡をとり、経過の支援に努めています。ご家族からの経過連絡もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・居室担当を中心に、本人の思いも洗い出し、随時緊急カンファも行なっています。 ・環境整備では、馴染みやすい部屋づくりと、重度化した場合でもご本人が安心して暮らせる環境整備を工夫しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に暮らしていたお家に訪問したり、ご家族やご本人からの情報収集をする事を重視し、経過の把握に努めています。 ・馴染みの品物や趣味、習慣を重要視した生活が送れるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の様子を各種チェック表と記録とで評価し、小さな変化も見落とさないように職員同士が連携しています。 ・できる所は、ご自身で行なっていただく自立支援で、生活の楽しみを増やす工夫をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的カンファレンスに加えて、身体状況に大きな変化がみられるお客様には臨時のカンファレンスを行ない、介護計画を作成しています。また、事前に居室担当者とCMIはご家族と情報共有もしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日勤リーダー制を導入しており、日々のお客様の情報の申し送りや共有がスムーズにできています。また、看護師やOTの関わりもあり、介護計画に専門分野の視点も取り入れられています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族やご本人の希望に沿って訪問歯科治療、訪問理美容の対応もしています。またリハビリスタッフと連携をとり、情報共有、指導を受けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・不定期ですが、町内会有志による衣類、シーツ、古新聞等の寄付があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療機関の間では、医師連絡表を活用する事で、受診対応時に直近のご様子をお伝えできるよう支援しています。臨時往診にも対応いただいています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設内のNSから日々のアドバイスを受け、適正な処置・受診の勧め・ケアでの注意点を指導してもらっています。状況に応じて、かかりつけ医のNSと連携をとって対応を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、CM・管理者・NSが入院先に訪問をしたり等で、情報収集に努めています。退院時には療養計画のもと、主治医との連携を重視し、速やかなケアに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・主治医からの診断のもと、終末期や重度化されている利用者のご家族が施設でも、ご家族会議を行なえるよう支援を行なっています。今年度は実施ありませんが当施設での看取りを希望されたご家族には医師の了解のもと、看取り介護を行なっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当については、普通救命講習への参加を実施する等、対応の習熟に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防火管理職員のもと、災害時の訓練を行なっています。防災備蓄の管理は、法人管理部と連携し、継続して行なっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の尊厳を尊重し、なれなれしくない会話の配慮を行なっています。場面により、よそよそしくなってしまうように、言葉かけには注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・毎日のおやつ時には、セレクトドリンクを提供しています。 ・利用者によっては、行きつけの馴染みの美容師の方にお越しいただき、対応している方もいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入浴の時間を固定するのではなく、職員が一人になる夜勤帯を除く時間内で入浴ができるようにしています。 ・2階と3階の行き来は原則自由で、活動の幅の制約はできるだけ少なくしたいと考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・利用者の好みの化粧品や服などを用意したり、ご家族にご用意の依頼をしています。 ・定期的に訪問理美容に来てもらい、ご本人・ご家族の希望に合わせ、散髪の実施もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者ができる範囲で、安全に配慮した調理介助の実施や、片付けもできる範囲で行なうようにしています。食事前後の消毒やテーブル拭き、食器洗いや食器拭きも行なっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・嚥下の状態や身体状況を考慮した食事形態や食事量で提供しています。 ・老健所属の管理栄養士の献立をクックチルにて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・視界の指導のもと、普通の歯ブラシに加えて、口腔洗浄剤や義歯洗浄剤、うがい薬などを使用して、その方にあつた声掛けや誘導にて口腔ケアを実施しています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・各居室にトイレが設置されており、トイレまでの距離が短い事で、失禁を減らせていると感じています。ご本人の希望に合わせて、トイレの照明の自動点灯や各種バッド類の使い分けや調整をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日のTV体操や転倒予防体操を行なう事で、運動の機会を確保しています ・寒天等、食物繊維のあるものを個別に提供している方もいます。 ・主治医と、排泄のタイミングについては随時連携を図っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望を確認し、希望時間に合わせた入浴も心掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・施設の備品として、ベッドは用意していますが、ご本人の生活習慣に合わせ、畳に布団敷きでお休みできる環境にしている方もいます。身体的に重度化した際には、介護ベッドの使用もしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診後に処方された薬情を個別にファイルし、職員が常時閲覧できるようにする事で、薬の内容や副作用について理解を深めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・各利用者の楽しみごとができるように必要物品の購入をしたり、それぞれに役割(ゴミ出しや園芸等)を持っていただくようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・新型コロナウイルス感染対策の為、戸外へのお出かけは制限がある状態ですが、すぐそばの公園まで足を伸ばし散歩をしたり、日光浴をする機会を持つようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は施設での金銭管理は行なっておらず、必要な物品やご本人の希望のものの購入に際しては、立替などで対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙のやりとりは、あまり頻繁ではありませんが、年賀状や暑中見舞いの返信は行なっています。 ・ご本人の希望に合わせ、電話通話対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各居室に掃出しの窓とベランダがあるので、換気と合わせ毎日開放する時間を作っています。 ・ベランダは園芸や、洗濯干し場としての活用をし、施設内に閉塞感がないようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事以外の時間は、気の合う方同士がお話されたり、ご夫婦での時間を大切に作る時間を作っています。 ・個室対応である事で、お部屋で一人で過ごされるプライベートな時間も作れています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みのものを使用しながらも、居室に合わせたもの買い替える事も行なっています。畳の部屋を好む方には、フローリングに畳を敷き、対応しています。 ・食器も個々に違うお茶碗と箸を使用しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・施設リハビリスタッフの意見を取り入れながら、ベッドやタンスの位置を調整したり、畳を敷いたりする事で、安全でスムーズに行動できるよう動線の確保をしています。		